

## [特別活動]

# 生徒の自治力・自主性を高める生徒会活動・行事の工夫

－リーダー育成，アクションプランの活用を通して－

堀口 晃一\*

### 1 はじめに

当校は、東に信濃川、西に西山連峰を臨む高台に位置し、火焰土器の遺跡を校区に有する自然豊かな環境である。そうした中で育ったため、従順で気持ちの優しい生徒が多い。

しかし、社会の変化が急速に進む中、価値観の多様化や人間関係の希薄化及び実体験の不足などから生徒を取り巻く環境も大きく変化し、学校生活においても、社会性や自主性に欠ける場面に遭遇することがある。

そこで、「集団生活の中で問題を見つけ、自らの考えを築き上げ、問題解決していく資質や能力を養う」ことにより望ましい社会性や自主性を育てることができると考えた。生徒にとって身近な生徒会活動を通して、「自治的かつ自主的な活動」そのものの質を上げることがこれらの力を育てることに直結するからである。

本稿では、平成16年度の3学期から平成17年度にかけて当校が行ってきた生徒会活動・行事に関する実践研究を報告する。

### 2 実践上の課題

当校の重点目標は「・思いやりの心を持ち、共に磨き合い認め合う生徒、・目標を持ち、実現に向けてねばり強くやり抜く生徒」である。その目標を達成するためにも、特別活動で自治的かつ自主的な活動をいかに支援できるかが大切になってくる。

しかし、当校は、若干名の学区外就学生徒を除き一校の小学校から、中学校へ入学してくる。中学校卒業までの9年間を小学校から続いている人間関係の中で過ごし、しかも全校生徒は175名と小規模校である。したがって、狭い人間関係の中で諸活動に取り組むため、リーダーが育たず、なれ合いの活動、または士気を高めることができず不発に終わる活動も少なくない。行事に対しても「向上していこう」、「新しい活動を作り上げていこう」という意識が低い。毎年の課題の改善が見られず「昨年と同じ」活動の繰り返しが続いていた。

こうした現状から、当校の重点目標を達成させ、集団活動を一層充実するためには、今までの「伝統」を大切にしながらも、新しい生徒会活動を作り上げていこうとする態度を育成する必要がある。生徒を主体とした生徒会活動を支援しながらも、特別活動の特質を具現化する、「①自治的活動を促進していく、②自主的な態度を育てる、③互いに磨き合い、共に認め合う集団活動を一層充実する」ことを目指していく必要があると筆者は考える。

### 3 実践課題の解決への手立て

上記①～③を達成させるため、リーダー育成を行い、日常活動の改善を図ることを基盤とし、当校の中心行事である体育祭を「集大成」として位置付ける。日常活動のアクションプラン（活動を成功に導くための「気付く」「生かす」「新たに気付く」という活動の流れをアクションプランと呼ぶことにする。）に基づいて、リーダー主導で全校生徒の変容や取組の成果を考えさせる。手立てとしては、生徒会活動・行事の充実を図るため、次に示すコンセプトに基づいて実施する。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 全校を動かせるリーダーの育成（年間を通してのリーダー育成の保証）</li><li>② 日常的な生徒会活動を展開するためのアクションプランの明確化</li><li>③ 体育祭の自治的・自主的な企画・運営（全校の団結力の向上）</li></ol> |
|---|

\*長岡市立関原中学校

なお、データは平成17年度にかけての意識調査の結果を用いることとし、生徒会活動・行事に対する意識の変容を探ることとした。

【表1】リーダー研修指導計画の概要

4 実践

(1) 「全校を動かせるリーダーの育成」への取組

(平成17年1月～)

表1は昨年度行われたリーダー研修の概要である。メンバーは、新生徒会総務、各委員長・副委員長、学年委員、生徒会担当職員、生徒指導担当職員である。

形式的なリーダー研修で、一方的に行う研修会もあるが、「生徒の自治的発想を促す」「主体的な態度を育てる」ということを重視し、ピアサポートやグループワークトレーニング（今回は、省略する。）を取り入れた。実体験を通すことにより、協力することの大切さを理解できたようである。

また、「生徒がいきいきと活動していける学校を自分たちの手で」というリーダーの手引きを作成した。「なぜ、集団にはリーダーが必要なのか」「リーダーはどのような姿勢で学校生活を送るべきなのか」「フォロワー、全校生徒をどのように動かすのか」「活動の企画・運営をどのように行うのか（アクションプラン）」など、リーダーの在り方についての研修を行った（平成17年1月6日、3月25日、3月26日実施）。次に示すのは、その手引き（抜粋）と生徒の様子である。

① リーダーの意識改革

資料1を生徒に掲示し、「リーダーにとって必要なこと」について議論を行う。

- 集団で一つの行動を起こそうとした時、まとめる人、方向性を示す人が必要になること。
- 集団で対立が起きたとき、解決し前進させていく人が必要であること。
- 初めから何でもできる人はいない。そんな時、先頭に立って行動してくれる人が必要になること。
- 失敗など自信をなくしている人を励まし、勇気づけるなど、頼りになる人が集団には必要なこと。
- 会議や話し合い活動で、議長や司会、時には提案者となり、先頭に立って成功に導く人が必要なこと。

集団における、リーダーの必要性を問うべく、リーダーがいなければ、その集団は良くなったり、発展したりはしないことを強調した。

この研修後、A子は次のように感想を述べている。

私は、1年生の時にも学年委員をやりました。しかし、集団にとって、これほどリーダーの役割が大きいとはびっくりしています。今後は、生徒会総務・議長という立場で、全校生徒全員が、楽しく、学校が好きになれるようにがんばっていきたいと思います。

そして、関中がどこの学校よりもすばらしくあるために私自身がリーダーとしての自覚と責任を持ち生活していきたいと思っています。（A子）

活動期	目的	研修内容
理論編	・組織のリーダーとしての責務とその重要性を認識する。 ・リーダーとしてどのような姿勢が大切かを認識する。	①校長先生の講話（リーダーの役割） ②SOSサバイバル（エンカウンター） ③話し上手・聞き上手（グループワーク・トレーニング）
実践Ⅰ	・リーダーとしての姿勢によって、全校の動きのメリハリが異なっていくことを理解する。 ・話し合いの進め方や討論の訓練を行う。	①生徒が生き生きと活動していける学校を自分たちの手で ②ノンバーバルコミュニケーション（ピア・サポート） ③よりよいリーダーシップ（グループワーク・トレーニング） ④来年度の総務・委員会・学年を考えよう
実践Ⅱ	・新生徒会の基本方針を検討する。 ・活動計画の作成及び行事の運営方法を学ぶ。	①専門委員会の運営や計画立案 ②企画立案と実施要項の書き方 ③新入生説明会の補助及び学校生活の紹介
理論編	・生徒会全体の意義や目的を確認し、リーダーとして全校の前に立つ姿勢を認識する。	①生徒会総会の運営や計画立案 ②新生徒会の基本方針の検討
実践・理論編	・自分たちの役割を再度認識し、自治力・自浄力を高める。 ・自治活動を検討し、新年度のよりよい関原中を作り上げる意欲を確認する。	①僕らのリーダー（グループワーク・トレーニング） ②今、何が問題で、何が前進しているのか。 ①いま、学校で考えていること（道徳） ②新年度の活動案細案検討・各担当からの提案による話し合い活動

【資料1】生徒が生き生きと活動していける学校を自分たちの手で



1 今日の中学校の現状と伝統

(1) 今日の中学校の現状とその特徴  
非行や問題行動が、中学校を中心に大きな社会問題になってから久しいものがあります。そうした中で、全国の中学校に共通的に現れている特徴から考えてみましょう。どんなことがあげられると思いますか。

- 生徒の生きる力が弱まっており、学校に登校しない子や自殺する者が急速なテンポで増えてきていること
- 生徒の家庭状況がきわめて悪くなってきている。親の離婚など子どもにとっては悲しい状況が多くなっていること

3 リーダーにとって必要なこと（基本編）

次に、リーダーにどんなことが必要なか、何を身に付けておけばよいのかについて、基本的なものや実践的なものに分けて学習していくことにしましょう。

(1) 基本的なものとは何か

(2) 人にはそれぞれちがった個性というものがあることを、十分に知って指導していくことが大切です。

集団を構成しているのは、人間一人一人であり、そこにはそれぞれちがった面が必ずあります。だからこそ、十分にその一人一人を分ることが重要なのです。同じことを要求しても、その反応のちがいを早く見抜く力を身に付けていくことです。

(3) 人の集まる場所、必ず気の合うもの、合わぬもの、そしてめ事が起こるものなのです。そのことを初めから知っていて、そこから逃げてしまわないことが大切なのです。とくにそうした場面ほど、リーダーの指導性が発揮されなければならないのだと思います。

(4) 人の行動をしっかりと見まわしましょう。いわゆる、ほめたり、叱ったり、注意したりできるということです。できれば、リーダーとして仲間の良いところをどれだけ発見し、ほめられるかがきわめて大切なのです。ぜひリーダーとして、そうしたことを頭に入れておきましょう。

(5) リーダーとしての自覚や、やる気は自然に出てくるものではありません。リーダーとして常に前向きに学び、行動していく中で身に付けられていくものなのです。

※ 以降12までは省略する。

## ② 提案理由の考察

今、生徒会活動の何が問題だろうか？何を改善していかねければいけないだろうか？という発問を大切に、時間をかけて考えさせた。「毎年と同じ活動」の繰り返しであった生徒にとっては、問題を洗い出すこと、改善が必要なこと、新しい活動を作り上げていくことは、抵抗があり、難しいようである。「なぜ新しい活動なのか？」を探りつつ、次の観点到に絞り込み提案理由を考えることにした。

- 責任をもち仕事に取り組んでいるか
- 生徒会活動が活発に行われているか
- お互いに高め合おうとする雰囲気はあるか
- あいさつは立派か
- ルールは守られているか
- 誰もが過ごしやすい環境であるか

生徒の中で、少しずつ声が出始め、各担当の立場で課題を考えるようになってきた。生徒の意見を次に示す。

ア 行事の時間がいつも延びる(総務)	オ 体育祭をもう少し活気あるのみにしたい(総務)
イ いじめ撲滅に関する取組が少ない(総務)	カ 関原祭りの花火清掃に参加していない(総務)
ウ 時間に関する呼びかけが必要(応援規律)	キ 朝のあいさつ運動があいまいである(応援規律)
エ 図書室の整理が必要(報道図書)	ク 給食の残量が多い(健康)      その他の意見は省略する

このように、様々な問題点が出てきた。各担当で、これらを改善し新しい活動にするため、資料2に基づいてアクションプランを練り上げていくことになる。以降は「キ 朝のあいさつ運動があいまいである」ことについての9月までの取組の変容を示す。

### (2) 「日常的な生徒会活動を展開するためのアクションプランの明確化」への取組(平成17年4月～)

「朝のあいさつ運動」といえば、生徒会活動を代表する一つの取組である。昨年度のあいさつ運動は活動が定期的に行われず、活動が低下した。いつ、どこで、何のために活動が行われているのかが明確化されていなかったのである。そこで、日常的な生徒会活動を展開するためのアクションプランを考えた。月に一度行われる評議員会を有効に活用し、あいさつ運動の改善を常に促し、新しい取組を積極的に取り入れることを考えた。

#### ① アクションプランの明確化

表2のアクションプランに基づいて、各担当で取組を考えさせた。特に、イ、オについては、「全校にとってどういう変容があり、どんな成果があったのか。」を考えさせ、建設的な活動展開を図った。

#### ② 評議員会の有効活用

評議員会は生徒総会に継ぐ議決機関であるが、リーダーが月に一度集まり、議論する場でもある。つまり、リーダー育成を継続的に行い、アクションプランの質を高めていくには最高の場でもある。そこで、評議員会の内容を改善した。当校は、水曜日に清掃を行わず、昼休みの時間を50分間と設定する、「ゆっくりタイム」がある。その時間を有効に活用する。

- |                             |                                     |                             |
|-----------------------------|-------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> 悩み相談会 | <input type="radio"/> 今月の振り返りと来月の目標 | <input type="radio"/> 質疑・応答 |
| <input type="radio"/> 承認    | <input type="radio"/> 諸連絡           | <input type="radio"/> 顧問の話  |

「悩み相談会」では、各活動での日頃の悩みや活動を成功に導くための話し合い活動が行われる。「一人で悩まないこと」「失敗を恐れず一生懸命に取り組むため」には有効な活動である。批判するのではなく、他部門のリーダーたちが親身になり意見発表や応援をするようになってきた。

#### ③ 「あいさつ運動」への取組と活動の変容

表2のアクションプランに基づいて行われたあいさつ運動の変容を次に示す。

(ア 提案理由→イ 目標・ねらい→ウ 計画→エ 実践→オ 評価→(新たに生かす))

## 【資料2】生徒が生き生きと活動している学校を自分たちの手で

- 4 リーダーにとって必要なこと(実技編)
- (3) 生徒会活動を行う流れに関すること  
次に、活動をどう成功させていくのかについて考えていくことにします。
- ① 会議のもつ意味について
- 会議は何に取り組むのかの集団決定(行動目標)を決める場である。たんなる話し合いの場にしてはならない
  - だからこそ、集中して論議していくことが大切です
- ② 会議には必ず原案を
- 会議が始まってから、さて今日は何について話し合いますかというのでは、まさに話にならない。必ず原案を用意しましょう。
- 現状分析(話し合い、気付き)
    - 何が前進していて、何が問題なのか、今何に取り組むべきなのか
    - (取り組むことの意義、普通はこれを提案理由という)
  - 目標、ねらい
    - 何のためにやるのか、何を目標やねらいとするのか
  - 計画する
  - どうやるのか(方法)
    - 期間の決定や分担、準備などをどうするのか
  - 実践
  - 評価(振り返り)
  - 新たに気づく

## 【表2】アクションプラン

【アクションプラン】	
ア 提案理由(現状分析)	→ イ 目標やねらい
ウ 計画(方法)	→ エ 実践
オ 評価	→ (新たに生かす)

【4月評議員会】※新専門委員会開始

ア 地域の方へのあいさつは良いが、学校でもあいさつをしっかりしてほしい。  
 イ 応援規律委員会であいさつ運動を毎日行おう。  
 ウ 朝7:50～学年ローテーションで行う。  
 エ 4月25日よりあいさつ運動を開始する。

【5月評議員会】

オ (悩み相談会)  
 ○ 応援規律委員会に元気がない。仕事分担がまだ定着していない。  
 ○ あいさつを返してくれない人が非常に多い。  
 ア あいさつを返さない人があいさつをするにはどうすればいいのだろう？  
 イ とにかく、全校生徒があいさつを交わす雰囲気を作ろう。  
 ウ あいさつ運動を盛り上げるために、生徒会総務もあいさつ運動に参加しよう。リーダーも元気にあいさつを返そう。  
 エ 生徒会総務もあいさつ運動に参加する。

【6月評議員会】

オ (悩み相談会)  
 ○ あいさつを返してくれる人が多くなってきた。でも、形式的で元気がない。  
 ○ あいさつの大切さをもっとみんなに知ってもらいたい。  
 ア 元気なあいさつを交わすにはどうすればいいのだろう。  
 イ 元気なあいさつで、活気ある関中を作ろう。  
 ウ あいさつ運動担当者もあいさつから始まる会話をしてみよう。生徒朝会で、総務・応援規律委員会が連携してあいさつのすばらしさを伝えよう。  
 エ 生徒朝会での呼びかけ、生徒玄関でのあいさつから始まる会話が交わされる。

【7月評議員会】

オ (悩み相談会)  
 ○ 分析すると、3年生男子、2年生女子のあいさつに元気がない人が多い。  
 ア 3年生男子、2年生女子にも元気にあいさつしてもらいたい。  
 イ 元気なあいさつで、活気ある関中を作ろう。(継続目標)  
 ウ あいさつ運動担当者を総務も応援規律委員会も縦割りにしてみよう。  
 エ 総務は、縦割り分担を完成し、実施。応援規律委員会は、分担中。

【9月評議員会】へと続く

応援規律委員会の「あいさつ運動」の見直しから始めた取組が、委員会内の改善から全校生徒へ向けて、目標や計画が変容していることが分かる。これは、リーダー間の意見交換やリーダーの責任感が高まってきたからである。

また、生徒会総務の参加や、「あいさつから始まる会話を楽しめば、みんなもあいさつを元気にする。」などの工夫、役割分担の改善など、様々な向上策がリーダーから発信されている。さらに、元気にあいさつする生徒を増やすため、「あいさつ運動を全校生徒から募集し活動してみよう」などの意見も出ている。なお、この取組による全校生徒のあいさつに対する変化は、後ほど5(1)で述べる。

(3) 「体育祭の自治的・自主的な企画・運営(全校の団結力の向上)」への取組(平成17年5月～)

当校の体育祭(平成17年9月4日実施)は、体育祭実行委員(生徒会総務と希望者)を中心に自主的に企画、運営されている。毎年、応援リーダーなどを中心にして活動が行われている。昨年度の体育祭後のアンケートでは「全校が楽しめ、団結できる企画をもっと行ってほしい」という意見が多くあった。そこで、全校生徒が一体となり参加し、協力し、「お互いに磨き、共に認め合える活動を目指す」ために、生徒会総務では、今年度の体育祭の見直しを進めた。

生徒会総務の見直しの着眼点として、

- ① 体育祭リーダーの士気を高める。(お互いを磨き合う)
- ② 全校生徒が団結できる活動の工夫を行う。(共に認め合える)

このことを目標に掲げ、体育祭の活動計画を練り上げた。次に示すのは、体育祭実行委員と生徒会担当職員による、体育祭実行委員会(全5回、平成17年5月、6月実施)での決定事項である。

- ① 「体育祭リーダーの士気を高める」規程の改正
  - (ア) 体育祭規程の明確化(リーダーに対するルール of 徹底)

学校生活に準ずるルールをすべて体育祭でも取り入れ、減点方法や審査基準を明確化した。審査を平等に行うために、「審査基準打合せ会」を設け、共通理解を図る。(※具体的な基準は紙面の関係により省略する。)

- (イ) 競技練習・応援練習の一体化

昨年まで	今年度の変更点	体育祭実行委員会のねらい
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 応援練習 5 時間</li> <li>○ 競技練習 7 時間 (各種目で、1 時間設定され、各軍で作戦会議 20 分、ルール説明・入退場 30 分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 種目説明会(夏休み 2 回実施)</li> <li>○ 軍団会 10 時間</li> <li>※ 応援練習、各競技の種目作戦会議、ルール説明もすべて、リーダーが計画し、団員に説明し運営する。</li> </ul>	リーダーが主体となり、軍を動かすことにより、リーダー性が発揮される。各軍で、失敗を改善することができる。軍がまとまり、連帯感や所属感が生まれる。

## (ウ) 実行委員、応援リーダーの組織の改善

昨年まで	今年度の変更点	体育祭実行委員会のねらい
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実行委員長 公募により決定する、</li> <li>○ 軍応援リーダー組織 3年生9人(団長, 副団長含む) 2年生2人, 1年生2人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実行委員長 生徒会副会長</li> <li>○ 応援リーダー組織 3年生9人(昨年と同じ) 2年生4人, 1年生4人</li> </ul>	生徒会副会長を実行委員長とすることにより、年度を超えた継続的体育祭を運営することができる。 1, 2年生のリーダーを増やすことにより 1, 2年生の意識が高まる。

## ② 「全校生徒が団結できる活動」の工夫

## (ア) 競技種目の改訂

昨年まで	今年度の変更点	体育祭実行委員会のねらい
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級対抗種目</li> <li>○ 男子種目 棒倒し, 騎馬戦</li> <li>○ 女子種目 タイヤ引き 騎馬戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学級対抗種目, 騎馬戦, タイヤ引き」をなくし,</li> <li>○ 「全員リレー, 3本綱引き, 100m走」の全校種目を取り入れる。</li> </ul>	学級単位, 男女単位で行われる種目を削減し, 全校種目を多くすれば, 一人一人の活躍が大切になる。 各軍一体となる活動を実現できる。

## (イ) 競技種目の得点配分の見直し

昨年まで	今年度の変更点	体育祭実行委員会のねらい
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年種目 1位40点, 2位10点</li> <li>○ 男女別種目 1位40点, 2位10点</li> <li>○ 全校種目 1位40点, 2位10点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年種目 1位30点, 2位10点</li> <li>○ 男女別種目 1位60点, 2位40点</li> <li>○ 全校種目 1位80点, 2位60点</li> </ul>	参加する生徒の人数により得点の比重を変えることにより, 軍団の団結力が必要になってくる。 1位と2位の得点差を小さくすることにより, 逆転できるチャンスを残し, 活気ある競技にすることができる。

## (ウ) 解団式(フィナーレ)の見直し

全校生徒の輝く姿, 満足感を感じるものを残したいという思いで, 今年度は解団式の最後に「全校記念撮影」を行った。軍という枠を超えて, 全校生徒が一体となり, お互いの姿を認め合うことができる場である。

## 5 研究結果と考察

## (1) 「リーダー育成, アクションプランの明確化」による全校生徒のあいさつの変容

表3は, 全校生徒のあいさつの変容を月ごとの評議員会を目安としてまとめたものである。4月の段階でリーダーがあいさつをしてもあいさつを返さない生徒, つまり, 自主的にあいさつをしない生徒が, 47.3%もいることにリーダーは驚いたようである。

5月「あいさつを交わす雰囲気を作ろう」を目標に, 生徒会総務も参加し, あいさつ運動が行われる。その結果, 5月から6月にかけて, あいさつをしない生徒が27.4%と減少している。さらに, 意識を高めるために, 6月には「元気なあいさつで, 活気ある学校を作ろう」を目標に, あいさつから始まる会話を楽しむようになる。次元の高い目標を常に掲げ改善を求めていった結果, 少数ではあるが元気なあいさつをする生徒が10.4%と向上し, あいさつをしない生徒が15.9%と減少していることも分かる。7月以降は, あいさつをしない生徒はごく少数となり, 新たな提案理由から意識を高める取組が始まる。

つまり, リーダーの自主性を常に高い次元へと引き上げるアクションプランが的確に機能したことが大きいと考えることができる。また, リーダーの強い自主性が発揮されたことで, 生徒が自ら自治力を高めることができた。今後も更に課題を考えつつ「新しい活動」を行い, あいさつを交わすことが当たり前となる新しい「伝統」を築き上げることができそうである。

## (2) 「体育祭の自治的, 自主的な企画・運営」による全校生徒の変容

表4は, 昨年度と今年度の体育祭後の生徒の自己評価「中学校には団結力があるか」についての結果である。

【表4】 中学校には団結力があるか

	昨年度				今年度			
	とてもある	ある	あまりない	ない	とてもある	ある	あまりない	ない
1年生	21.1	62.4	10.9	5.6	39.7	51.7	8.6	0
2年生	23.0	61.1	14.2	1.7	39.3	58.9	1.8	0
3年生	47.7	47.9	4.4	0	50.9	49.1	0	0
全校	30.6	57.1	9.8	2.4	43.3	53.2	3.5	0

【表3】 全校生徒のあいさつの変容 %

期 間	あいさつを返さない	あいさつに元気がない	元気なあいさつを返す
4月～5月	47.3	48.6	4.1
5月～6月	27.4	66.8	5.8
6月～7月	15.9	73.7	10.4
7月～9月	5.2	78.5	16.3

結果を見ると、全校の3.5%（6人）が、団結力が「あまりない」と答えている。「体を動かすことが苦手」「集団で何かをすることが好きでない」ということが理由である。集団で人間関係を築く活動なども取り入れながら、来年度は、100%の生徒が、団結力が「ある」以上になるよう取り組んでいきたい。

一方、団結力が「とてもある」と答えた1、2年生の割合が増えている。また、全校の96.5%の生徒が、団結力が「とてもある」または「ある」と答えている。これは、

- ① 「リーダーの士気を高め」、勝利へのこだわりや、一人一人の存在感や自主性が高まったこと
- ② 「競技種目・得点の改訂や解団式の全校記念撮影」など、全校生徒が楽しみ、団結できる活動を体育祭実行委員会が企画、運営したこと

が大きかったといえる。つまり、多くの生徒が体育祭を通して一体化でき、お互いを磨き、認め合う活動ができたと考えられることができる。

また、写真1は閉会式の前にリーダーたちが地域、保護者の方々、体育祭実行委員会に向けて感謝の気持ちを込めて第二応援歌を送った場面である。プログラムにない活動をリーダーたちが自主的に、内密に計画し披露したのである。この自主的な全校生徒の姿も今年度の体育祭評価が昨年度より良かった一つの理由と考え、来年度も生徒の自治力、自主性を大切に団結力を高めていきたい。

【写真1】



(3) 「生徒会活動に対する職員アンケート」による生徒の実態

表5は、「自治的、自主的な活動を通して全校生徒の学校生活が改善・向上されているか」という質問に対する回答である。職員の63.6%が「思う」と回答しているが、「とても思う」にならない理由として、「活動の改善は図られているが、活動があいまいになる時がある」、「全職員がリーダー育成に向け、より関わるべきである」、「リーダーは育てているが、フォロワーを育てるための取組が必要」などである。

【表5】「自治的、自主的な活動を通して、全校生徒の学校生活が改善・向上されているか」%

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
36.4	63.6	0	0

一方、36.4%の職員が、「とても思う」と回答している。理由として「リーダー性が十分に育てている」、「各諸活動の目標が明確であり、向上が図られている」などである。

少しずつであるが、自治力・自主性が育ち、学校生活が改善され、生徒会活動が向上しているようである。今後も、当校の実態にあった活動を創り出し、生徒が自ら考え、問題解決していく資質や能力を養っていきたい。

## 6 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- ① リーダー育成やアクションプランの明確化を図ることにより、全校生徒の自治力・自主性を高めることは、互いに磨き、共に認め合う集団育成には効果があった。
- ② 「伝統」を大切にしながら、「問題を見つけ、新しい活動を築き上げていく」リーダーの自主性を高めることができた。

### (2) 今後の課題

- ① 生徒指導部と連帯し、いじめ撲滅運動（今回は省略する）を推進し、更に過ごしやすい学校を作り上げていく。
- ② 生徒指導部、専門委員会顧問などの職員間の連帯をより深めていき、職員が目指す生徒像を築き上げ、生徒会活動を更に活発にしていく。
- ③ 全職員が、生徒会活動の活性化に向け、参画していくための意識改革を推進していく。

## 参考文献

- 文部省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、ぎょうせい、1999年  
 白井 慎、西村 誠、川口幸宏編 『新特別活動』、学文社、2005年  
 笈川達男監修 『新編特別活動の理論と実践』、実教出版株式会社、2000年